



## 第拾卷第十一號

### 感化誘導

訓練上に感化誘導の必要なことは云ふ迄もなけれど、智育上にも同様に無意識的誘導の行はる可きことは氣付ぬものが多い。斯かる人々は智識は單に注入す可きもの技能は單に教ゆるものと考へて居るのであらう。飛んでもない間違である。注入したる智識も教へ込む所の技術も彼等に之を受取る可き素地を作つて置かなければ決して把拵されるものではない。而して此把拵點を用意することは單に注入し知らしむるのみで出来るものでない。必ずや感情方面より誘導して充分の興味を發揚せしめ置くことを以て其一豫備としなければならぬ。ヘルバルトが教授する前に管理することの必要を唱へて居るのは此點に於ては決して非難することは出来ぬ。方今の教育は教授萬能であるかの如く見受けられる是れ果して正鵠を得たるものであらうか。吾人犬に疑なき能はずである。否、教授の前に於て常に被教育者の智的作用をも一定の目的に従ひて之を誘導せんことを心掛ければならぬものであると思ふ。